

# 和をもって

第27号

発行  
成相山成相寺京都府宮津市字成相寺339  
TEL0772-27-0018  
<http://www.nariaiji.jp/>

## 有るがまま

新型コロナウイルス、この一年で一  
番聞きたくない言葉です。皆が苦しむ  
コロナ禍の日々ですが、出口に向けて  
の灯りも見え始め、一日も早く穏やか  
で健やかな日々が皆に戻る事を心から  
祈るばかりです。しかしコロナの影響  
か、世の中には何かにつけ他を批判し、  
自分たちの意見だけを正当化しようと  
する情報がどれほど多いことか。正解  
が判りにくい時だからこそ、私たちは  
その様な情報や話題に振り回されない  
ようにしたいものです。

そう言えば、先日のテレビで葬儀参  
列のマナーや常識が有るかどうかを、  
マナー講師が評するという番組があり  
ました。私も専門家？の端くれとして  
自己採点をするべく観ていたのでした  
が、その内容はタレントの失敗や所作  
を笑うという何とも悲しい気持ちにな  
るものでした。

ある経典の一句に「如實知自心」（じゆじつちしん）実  
の如くに自分の心を知るなり、という  
聖句があります。自分の有るがままを、

有るがままに自覚するという事です  
が、今の社会では自分の欠けている所  
や足りない所には少しも気付かず、や  
やもすれば有りのままの自己をより尊  
大に評価してしまい、自分も他人も不  
快に感じる事がいかに多いことか。「実

の如くに自心を知る」という事は単に  
自分のみを知るという事ではなく、真  
の自分を知ると同時に他人をも充分に  
知る。自分と同様に他人にも意見や希  
望はあるという事を承認しつつ、自分  
と他人とを同様に扱う事を意味してい  
るのです。日々の生活において

気を付けたいものですし、日本  
人の精神文化の香気、大切に守  
りたいものです。

さてさて話は戻り、そのテレ  
ビはたしか仏式葬儀での話でし  
たが、番組での正解としては、

挨拶は小声で「ご愁傷さまです」  
かつ語尾は消え入るように。焼  
香への通路は端を歩き中央は歩  
かず、お香は三本指（親人中指）  
で摘むこと。香典返しを受ける  
際は「ありがとうございます」

と言わないこと等など。このコ  
ロナ禍の影響で新しい常識は、  
この様になったのかと思うほど  
でした。

私が思うには心からの弔意を  
もって参列すれば、必ずしも言

葉を発する必要はなく、黙礼でもいい  
でしょうし、お悔やみの言葉は語尾を  
消え入るように言う必要はありません。  
むしろ言葉を発するなら相手様に  
分かるように願います。焼香時に通路  
の端を歩くなどというのも間違いで  
す。静かに中央を歩き進んで下さい。

お香は三本の指で摘まむ決まりはあり  
ませんが、本来貴重なものなので、  
丁寧にご焼香して下さったらいので  
す。香典返しを受けとる際は黙礼でも  
失礼にはなりません。そして「ありが  
とうございます」はいけないとありま  
したが、悲しみの中で会葬者の事まで  
なかなか気が回らないのにお気遣い下  
さりまして。なので「ありがとうござ  
います。」で何ら問題は無いのです。

以上マナー講師の常識に対する私の  
採点でした。

皆様はいかがお考えになりますでし  
ようか。人それぞれ、意見があり、そ  
れを言い合えるのが今の日本の良いと  
ころでもあります。

ご家族ご夫婦で、又話し合ってみて  
くださいませ。

皆で大声で話し合ったり、笑いあえ  
る日が来るのが待ち遠しいですね。

どうぞ、くれぐれもご自愛頂きます  
よう、お祈り申し上げます。

南無観世音菩薩 合掌

山主 弘眞



## 山内順一礼

今回は孔雀明王様をご紹介します。

この仏像は昭和五十七年に奈良の仏師、寶田師によって製作されたものです。

孔雀明王様というのはどの様な仏様でしょうか。

正確には明王です。明王といえば、不動明王様を代表として怒りの表情（忿怒相）をしておられるのですが、孔雀明王だけはおだやかな表情をしておられます。他の明王は髪の毛を逆立てていますが、孔雀明王だけは豪華な宝冠を被っているのも特徴的です。

インドでは、孔雀明王は女性が神格化した存在なので、柔らかな表情なのだそうです。

表情も佇まいも菩薩の特徴を持っているので、「孔雀明王菩薩」とも呼ばれたこともあるようです。

仏教発祥の地インドでは、コブラをはじめとする毒蛇は、人間に害を与えるので、たいそう怖がられます。孔雀は蛇に向かい合ったとき、わざと弱ったふりをして自分の体に巻かせ、蛇が襲いかかるうとする瞬間、いっきにつばさを広げて撃退するのだそうです。こうした孔雀の力はやがて神様のように扱われ、鳥ではなくホトケの姿に結晶していききました。それが孔雀明王だそうです。

孔雀明王は、孔雀が美しい姿をしながらも人間の最も嫌う



猛毒をもった蛇を食べ、その害から守ってくれるところから信仰を集めたようで、一切諸毒を除去する能力をもつ功德から、息災や祈雨などの本尊として祀られてきました。

この度、我々を悩ますコロナの厄災から、強くお守り頂きたいと願い、孔雀明王様のご祈願を受付いたします。

ご希望の方は申込用紙に記入いただき、千日のお申込みと一緒に送りくださいませ。

護符と共に写真をご送付致します。